

学童保育所(公設児童育成クラブ) 定数拡大へ緊急措置求める請願提出

共産党議員団が住民と共同 学童保育を必要とする子どもすべて受け入れを!

今年1月下旬、「児童育成クラブへの入所申し込みを『却下』され、どうしたらいいかわからない」との悲痛な相談が党議員団に寄せられました。議員団はただちに担当部門に問い合わせ、一次入所調整において公設児童育成クラブに入れず「却下」されている人が144人に上っていることを把握、事情を聞くとともに、緊急対策を含む必要な対応を強く求めました。

一方、児童育成クラブ入所を「却下」された保護者を中心に、事態の解決を求める議会請願の声が高まり、18日には共産党議員団の篠原とも子市議を紹介議員として、「請願書」が草津市議会議長あてに提出されました。

学童保育所(児童育成クラブ)は、親の労働を保障するとともに、子どもたちにとっては放課後を安全・安心に生活できる場でもあり、

年々、入所希望が増え続けています。また、政府の進める子ども子育て支援新制度にも位置付けられ、小学校6年生までの保育拡大がすすめられています。

学童保育所に入れるかどうかは生活のかかった深刻な問題です。党議員団は空き教室を活用した学童保育など、緊急の対策を強く求めるとともに、公設中心・小学校区毎の学童保育所設置・拡大を求めて、

請願書の採択へ向け、他党派の議員とも力を合わせて、今後がんばる決意です。



請願書を提出する共産党議員団

藤井みえ子市議の談話

草津市の学童保育は、1980年頃からはじまり、保育所から小学校へ進んだ子どもたちの、放課後の生活保障の場として、保護者の自主運営により生まれました。やがて行政による運営へと発展、現在は公設・民営で運営されていますが、年々増える児童数に施設整備が強く求められています。

格差と貧困が広がるなか、子どもたちを取り巻く環境は深刻化し、放課後を過ごす学童保育はますます重要になってきています。施設の整備は国と自治体の責任、緊急対策として空き教室や民家、空き店舗などを活用し、学童保育を必要とする子どもたちをすべて受け入れることが求められています。

保護者や市民の願いをしっかりと受け止め、必要な学童保育が受けられるよう、全力をあげてがんばります。

ブラック企業 追及



日本共産党 吉良よし子参院議員

「若者から夢を奪い、人生を奪うブラック企業の根絶」をライフワークとする吉良よし子参院議員。6日の参院決算委で初の首相対決(TV入り質問)の論戦にのぞみ、タイムカードの打刻時間を遅らせて労働時間をごまかすブ

ラック企業を实名で告発しました。
“初首相質問”は大反響。「私が働いていた職場でも、同じようなタイムカードの実態がありました。周りからは、それが常識だと言われていました! これからも、働く人々のために、頑張ってください!」ラジオ体操、就業時の掃除など時間内になりますように! 成果、大分獲得しました! ご苦労さまでられています。



<http://kusatu.jcp-web.net/>
久保あきお
草津市青地町 975-9
077-567-8604



くらし・福祉・教育
篠原とも子
草津市矢橋町 7-102
077-532-2012



身近な生活相談所
藤井みえ子
草津市南山田 468-2
077-562-9822